

令和元年度第2回大分市子ども・子育て会議 議事録

1. 開催日時

令和元年8月23日(金) 午後1時30分～3時45分

2. 開催場所

大分市保健所6階大会議室

3. 出席委員

古賀 精治会長、赤峯 慎太郎委員、板井 善江委員、井上 晶子委員、今村 博彰委員、
大津 康司委員、小野 昭三郎委員、川口 京子委員、定宗 瑛子委員、澤口 博人委員、
秦 昭二委員、長田 教雄委員、野崎 弘子委員、平野 昌美委員、淵野 二三世委員、
吉岡 泉委員

4. 傍聴者

なし

5. 次第

1. 開会

2. 議事

(1) 第1回大分市子ども・子育て会議で出された主な意見について

(2) (仮称)第2期すくすく大分っ子プラン(案)について

分野2 子どもの育ちや自立への支援

分野3 配慮を要する子どもへの支援

3. その他

4. 閉会

6. 会議資料

次第

資料1 第1回大分市子ども・子育て会議で出された主な意見

資料2 (仮称)第2期すくすく大分っ子プラン(案)

分野2 子どもの育ちや自立への支援

資料3 分野3 配慮を要する子どもへの支援

7. 議事概要

議事(1)第1回大分市子ども・子育て会議で出された主な意見について

<主な意見等>

(委員)

保育士不足は待機児童の解消だけではなく、保育士が研修に行けず、また、休みが取れないなどの問題もある。保育士確保のための新しい取り組み、特に新しい保育士確保策を盛り込んでほしい。

(事務局)

「すくすく大分っ子プラン」は大分市の子どもと子育てに関する取り組みの基本となる総合的な計画であり、計画内での記述は保育士として働いている人の離職防止と新規保育士の確保も含め、「職場環境の改善や勤務労働条件の向上に向け支援の充実を検討していく」としている。個別、具体的な事業については、計画策定後、計画を踏まえて具現化していくこととなる。「新しい保育士の確保」については明文化を検討する。

(会長)

保育士確保と離職防止、そして、離職した人の復帰と新規採用については文言を加える方向で検討するとして、具体的な事業を考えないといけない。事務局だけではなく、委員の皆様でも、何かいい案があれば出して頂きたい。

(委員)

保育士の掘り起しは大学生からでは遅く、高校生から始めた方が良いと思う。こうすれば保育士になれる、幼稚園に就職できる、などの情報を提供すれば雇用の促進が図られると思う。

(委員)

国は「無償化により不要となる財源を地域における子育て支援の更なる充実につなげるようにすべき」と通知している。そうした予算を保育士確保に充当すると保育士として大変助かると思う。

(事務局)

昨年度から中学生、高校生を対象に保育士の魅力を伝えるリーフレットを作成・配布し、早い時期から保育士に興味を持ってもらえるようアプローチを行っている。今後、充実させていきたいと考えている。

無償化によってねん出できた財源を保育士確保に回してほしい、とのことだが、今回の無償化により保育料のうち、3歳以上児及び0歳から2歳の市民税非課税世帯の子どもの保育料は、全て国・県・市の負担となり、特に来年度以降は市の負担が増えることになる。なお、保育士の処遇改善は、毎年、人事院勧告に準拠する分と処遇改善等加算Ⅰ、処遇改善等加算Ⅱにより実施し

ている。今後も引き続き予算の確保に努めていく。

(委員)

県内出身者が多い福岡の大学等にアピールに行っているとのことだが、具体的な内容を教えてほしい。

(事務局)

5月から6月にかけて、大分県と合同で県出身者が多く在籍している福岡の短大等の養成校を訪問し、進路指導の先生に、大分市へのUターン就職を学生に勧めるよう、協力を要請する取り組みを今年度から始めた。今後も県と連携して取り組むとともに、訪問する学校数の増加などを検討する。

(委員)

保育士になることのPRの方法や、何に魅力を感じたら、今の若い人はやってみようと感じるのか。市と県の職員が福岡で説明しているらしいが、そのノウハウを教示してくれると、現場の保育士たちにそんな話をしながら頑張らせたいと思う。

また、松戸市では待機児童ゼロが3年ほど続いているが松戸市には、松戸手当というものがあり、保育士への手当が大変手厚くなっている。保育士の質の向上を図るため先生の雇い入れや、住宅手当の補助、市長による勤続10年の保育士に記念品の贈呈など取り組んでいる。大分市でも松戸手当を参考にしてほしい。

(会長)

前回の会議の際に、保育士を目指している学生のうち、実際に就職しないのは数名しかいない、との話があった。県外に行った学生に戻ってきてもらうためには、目玉となる政策が必要だと思う。分かりやすくないと確保できないだろう。

【議事(2) (仮称)第2期すくすく大分っ子プラン(案)分野2 子どもの育ちや自立への支援 目標4「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育成し、生きる力をはぐくむ学校教育の充実】

＜主な意見等＞

(委員)

数年前に文部科学省から、がん教育について外部講師を入れるなど積極的に取り組むよう通達が出ていたと思うが、次期計画には盛り込まれているのか。成人のがん検診受診率が10%未満で非常に問題になっているので 文言を追加した方が良いと思う。

(事務局)

がん教育は「健康教育」の一貫として実施している。文言の追加については検討する。

【議事(2) (仮称)第2期すくすく大分っ子プラン(案)分野2 子どもの育ちや自立への支援 目標5 地域と一体となって子どもたちをはぐくむ「地域とともにある学校づくり」の推進】

<主な意見等>

(委員)

児童 100 名以上の放課後児童育成クラブ及び民間の児童育成クラブが市内にいくつあるか教えてほしい。私が所属しているクラブは最近建物が新しくなったが、今後も利用者が増加する見込みだ。子どもの安全・安心を考えた時に、建物だけでなく、そこで働いている人の増員も考えてほしい。

また、新・放課後子ども総合プランの目標として「子どもの主体性を尊重し、健全育成を図る放課後児童クラブの役割を徹底し、子どもの自主性、社会性等の一層の向上に努めます」と掲げているが、大規模な育成クラブではどう実現すればよいのか。

(事務局)

放課後児童育成クラブ 54、民間育成クラブ 11 の、合計 65 クラブあるうち、100 人以上は 17 クラブである。

大規模なクラブの運営方法については、放課後児童支援コーディネーターがこれまでもアドバイスなどしてきたが、独自にどういう形で取り組むとよいのか、指導員の参考となるような研修を検討する。また、市から何か提案が欲しいとのことであれば、後日相談させていただく。

(委員)

私が所属している育成クラブは主任指導員が 3 人いるが児童が多いので、一人で 40 人以上担当している。加配の支援員もいるが主任指導員としての責任を重く感じる。また、夏休みなどの長期の休みとなると、長時間の担当になるので負担が大きくなる。新人が増えればいいのかもわからないが、その場合、組織として考えないといけないことも出てくる。

(会長)

何か提案はあるか？

(委員)

今の 100 人いるクラブが 50 人くらいの 2 つの育成クラブに分割されると望ましい。

(委員)

児童育成クラブでは未経験者も指導員になるため、トラブルなど問題を抱えると重荷に感じ、長

く働くことができず辞めていく人がいる。教育現場に携わった専門の人がいると、指導員もまとまると思う。

(会長)

指導員の候補を見つけるのも大変である。教員の再雇用なども足りない状態にある。

(委員)

児童育成クラブの指導員の待遇を教えてください。

(事務局)

平成 29 年に指導員の報酬の改定を行い、主任指導員の場合が年額で約 180 万円程度、加配指導員の場合は時給 850 円です。

(委員)

報酬をもらい始めると、扶養を外れなければならない。そのため、国民年金と国民健康保険を支払う必要があるのですが、そんなに手取りが増えていないというのが主任指導員の実感である。そのため、現状では、新たな主任指導員が中々見つからない。見つかっても年配の人になる。

(会長)

年配の人にとって、元気な小学校 1 年生の世話は大変だと思う。

(委員)

育成クラブの意義はとても大きいと思う。大分市は保育施設だけでなく、育成クラブの指導員についても処遇改善を考えてほしいと思う。

【議事(2) (仮称)第 2 期すくすく大分っ子プラン(案)分野 2 子どもの育ちや自立への支援 目標6 安全・安心な学校づくりの推進】

<主な意見等>

(委員)

基本施策①「いじめ、不登校等への対策の充実」の成果指標「小中学校におけるいじめの解消率」「不登校児童生徒の出現率」について、設定理由を教えてください。

(事務局)

いじめや不登校は、大分市の喫緊の課題と認識している。設定した指標についてだが、いじめの定義自体が変わり積極的に認知していく方向になり、数字の多寡で判断することが困難になったことから、「いじめの解消率」に変更した。

不登校については、今後、児童生徒数が減少する見込みであり、数による経年比較が困難になると思われるため、出現率に変更した。

(委員)

学校で起きたいじめ等の事例が引継ぎされていないことがある。研修をしても人事異動があるのでマニュアルは難しいかもしれないが、学校で起きたことの経験や取り組み内容、成果などの情報を集約し、引き継いでいくことが大事だと思う。

(会長)

「いじめの解消率」や「不登校児童生徒の出現率」を成果指標に出すのは自然だと思うが、個別事業に記載している研修実施率は平成 30 年度で既に 100%である。この成果指標を達成するためには、個別事業をもう少し工夫する必要があるのではないか。

研修は難しい面がある。具体的に深刻な事案は多くの先生に経過を知ってほしいが、個人情報の問題もある。そのため、教員同士でも他のクラスの件は良く分からないまま終わってしまう。

(委員)

児童育成クラブでは、いじめについてどんな対応をしているのか教えてほしい。また、「大分市の小中学校では耐震・トイレ・空調等の工事を行っている」とあり、空調設備は今年中に全校完備すると聞いているが現在の進捗状況を教えてほしい。あと、トイレについても、和式から洋式へ変更すると聞いているが、進捗状況を教えてほしい。

(事務局)

児童育成クラブの運営委員会で対応できるいじめについては、各委員会で解決されていると思う。それでも解決できない、対応方法がわからない事案については放課後児童支援コーディネーターが指導員に対し指導やアドバイスをしたり、直接保護者と話して対応している。なお、児童育成クラブにおける年間のいじめの件数は把握できていないので、今後、対応を考えていく。

空調工事については、昨年 8 月に中学校の普通教室への空調設備の設置が終了した。小学校の普通教室においては、今年の 2 学期から使用可能な状態になっている。今後は、家庭科室や理科室などの特別教室への設置を検討していきたいと考えている。

トイレの改修は、大規模な長寿命化工事と併せた工事を基本とし、別途、スポット工事も毎年計画的に行っている。なお、衛生面の配慮や、子どもたちの中には使いにくいと声もあるので、全て洋便器ではなく、和便器を最低 1 つは残しながら、洋式化を進めている。

(委員)

不登校児童の居場所に関連して、学校においてもスクールソーシャルワーカーとの連携やスクールカウンセラーへ繋ぐなどの対応ができるようになったが、フリースクールについての知識も持

ってほしい。

不登校児童が学校に戻る際にも、加配の先生をつけないと、不登校児の安心・安全の確保につながらないと思う。保護者のサポートという意味でもお願いしたい。

フリースクールに行かせるには費用がかかるが、補助がない。今、不登校児童も増えているので、配慮をお願いしたい。

エデュ・サポートおおいたについてだが、不登校児が増えると、個人への対応の順番があまり回ってこなくなるので配慮をお願いしたい。

(会長)

成果指標「いじめの解消率」「不登校児童生徒の出現率」を達成するための案について、いくつも良い示唆が出たと思う。これを具体化できないか、検討してもらいたい。

(委員)

児童育成クラブについてだが、校長先生や教頭先生は非常によく指導員の相談に応じてくれる。運営委員会にも入っているので、指導員も相談ができる。また、運営委員会には学校や家庭、地域や自治会長も入っているので、運営委員会方式の運営はそれなりに成果が出ていると思う。

課題としては、児童育成クラブは以前は4年生までだったが、法律の改正により6年生まで利用可能となり利用者数も増えている。それでも、児童育成クラブは子どもがかわいいという人がみてる事業であり、そんな人を採用できればいいと考え理想を求めている。

**【議事(2) (仮称)第2期すくすく大分っ子プラン(案)分野3 子どもと家庭へのきめ細かな支援
目標7 障がい等のある、またはその可能性のある子どもと家庭への支援】**

<主な意見等>

(委員)

「幼児教育・保育施設での充実」について、特別支援保育の基準を教えてほしい。

(事務局)

特別支援保育の基準は、座位がとれ、他の児童との集団による保育が可能であることなどで判断し、特別支援保育審査会で決定している。年齢は原則3歳以上児とし、療育手帳がある場合は2歳児以上となる。また、療育手帳や医師の診断書なども確認している。

(委員)

「障がいの受容に対するサポートが必要」とあるが、これは保護者が子どもの障がいを受容することへのサポートを指していると思う。だが、地域社会で障がいのある子どもが育っていく、生きていくためにも、地域社会が障がいを受容する、理解する、サポートする社会づくりをしてほしい。

(委員)

障がいのある子どもを小学校に受け入れるかの基準を統一するか、あるいは受け入れられる学校を紹介するなどの情報共有が必要だと思う。

(事務局)

頂いたご意見は参考にして検討させてもらう。

(委員)

障がいのある子ども受け入れについては子どもを主体に考えるべきだ。学校側の都合じゃなく、その子にとって何が一番大事なのか、常に考える事だと思う。

また、幼稚園児でも、障がいのある子どものサポートがとても上手だ。障がいのある子どもとの触れ合いの中でお互いが育つ「人間としての育ち」があると思うので、学校で受け入れてほしい。

(事務局)

障がいのある児童生徒に対し、障がいの種別及び程度の的確な判定並びに就学指導により、その能力及び特性に応ずる適切な教育を行い、もって教育の機会均等の確保を図るため、「大分市障害児適正就学指導委員会」を設置している。

「大分市障害児適正就学指導委員会」は、医師や心理学者をはじめ、福祉、保健、教育の関係者からなる委員で構成され、学校からの資料や教育委員会事務局による面談等の内容をもとに、障がいの種別及び程度についてそれぞれの見地から総合的に検討し、適切な就学について判断を行っている。

就学前の児童については、障がいの状態や教育上必要な支援の内容、地域における教育の体制の整備の状況等、「大分市障害児適正就学指導委員会」での総合的な判断を踏まえ、主に教育委員会事務局が保護者との相談を行う中で、可能な限り本人、保護者の意向を尊重し、教育的ニーズと必要な支援等について合意形成を図りながら、就学指導を行っている。

(委員)

配慮を要する子どもへの支援について、大分県では保育コーディネーターという資格があると思うので、もっと取り組んでほしい。

(事務局)

保育コーディネーターの活用については、コーディネーターから話を聞くとともに、関係機関と連携しながら、活動しやすい環境づくりを図っていく。